

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（10月定例会）会議録
開催日時	平成21年10月16日（金曜日）14時00分から16時00分まで
開催場所	保谷庁舎3階第2会議室
出席者	委員：小川議長、濱崎副議長、倉島委員、齋藤委員、白木委員、本田委員、宮崎委員、山田委員（五十音順） 欠席：岡村委員、須永委員、高谷委員、本領委員、松嶋委員 （傍聴人 1名） 事務局：下田社会教育係長、神田主査
議題	（1）今期の活動計画について （2）報告、その他
配布資料	みんなの生涯学習No.97 第9回西東京市民文化祭 プログラム 平成21年度多摩六都図書館ガイドブック
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

平成21年9月定例会議の会議録を確認、訂正後承認する。

(1) 今期の活動計画について

議長：

前回から引き続いて今期の活動計画について検討したい。前回欠席された委員もおられるので、前回会議の内容も含め、自由に意見を出してもらいたい。

主な意見等

図書館活動について

委員：

多摩六都の図書館の状況を見ると、西東京市の図書館活動は、館数も多く充実していると思う。(平成21年度多摩六都図書館ガイドブック参照)しかし、市内の図書館配置を見ると北町地区には図書館がない。そのエリアの図書サービスとしては、ふれあいセンターや家庭文庫などがあるが、満足が得られているわけではない。移動図書館の運行によりそのエリアのサービスの充実が図られないだろうか。また、本棚の転倒防止策等施設の安全面についても心配である。自分の活動として、近隣の図書館の見学や調査等を行っているが、社会教育委員の会議として先進的な図書館活動の調査などをしながら、図書館活動の課題解決に向けた実践的な施策をまとめていければと思う。

事務局：

社会教育委員は、職務のための調査研究活動を行うことができる。公民館や図書館の運営については、それぞれ館長の諮問に応じる公民館運営審議会や図書館協議会が設置されている。社会教育委員としては、社会教育振興や生涯学習推進のための施設のあり方という大きな視点から、図書館や公民館などのあり方について検討することになるのではないかと思う。

委員：

西東京市の図書館は貸し出し冊数も多いが、盗難される本も多く、利用者のマナー向上も課題ではないか。

委員：

無料で図書館に入館できるということは、世界的にみてもめずらしい事である。日本は税金を払っているからこれくらいはいいだろうという権利主張が強く、公共サービスに対する意識が低い感じがする。公共についての教育が弱くなっている気がする。公共や知的財産に関する意識向上に向け、社会教育行政として何に取り組めばいいのか、そういうことに結びつく議論をしていけば、社会教育委員として役に立つ活動ができるのではないか。

委員：

指定管理者により図書館運営をしている自治体があるが、図書館の閲覧スペースも広く、インターネットで本も読めるなどサービスは充実している。利用者のニーズにどこまで応えていくのかという事だろうが、サービスを充実させればそれだけ赤字になるようだ。

委員：

子どもたちの図書館の利用状況はどうなっているのだろうか。地区会館の会議室に本を置いて地域文庫の活動をしているが、子どもの利用は少ない。子どもたちは忙しいようで、ゆっくりそこで本に触れるということではなく、借りたらすぐに帰ってしまうという感じである。本の貸し出しだけでなく、読み聞かせや工作教室、クリスマス会なども開催し、子どもたちが足を運んでくれるよう工夫をしている。子どもの読書活動が推進される機会の充実が必要だと思う。

委員：

以前学校で「読書マラソン」ということで、子どもたちが読んだページを記録させていくという取り組みを学校でやった事があるが、学校の教師が指導しないと子どもたちにはなかなか読書習慣は身につかないだろう。社会教育での読書活動の取り組みも、学校教育や家庭教育と連携していかないと進まないと思う。家庭教育の中でも、テレビ中心ではなく読書に関わる環境がどう用意されるかが大切だろう。

委員：

地域の人たちによる本の読み聞かせ活動も、きちんと学校でのカリキュラムに組み込まれているところもあるが、学校によって対応が違うようだ。

委員：

学校現場も授業数の確保が難しいこともあり、地域人材を活用した授業への取り組みは学校の考え方次第だと思う。

委員：

学校図書室の利用状況はどんな様子なのか。

委員：

市内の図書館とネットワーク化されていて、リクエストをすると学校に本を届けてくれるので、生徒たちもすぐに本を借りる事ができる。

公共マナーの向上

委員：

マナーについては、年配者のマナーにも問題があると思う。そういった大人が今の子どもたちを育てている。大人の公共性を育てる事も大切で、そういうことに役立つ社会教育活動が必要だろう。

委員：核家族になってから代々受け継がれてきた良い所が学べなくなり、そういった傾向が強くなってきたような気がする。40代・50代の人たちでも子育てが分からなくなっているのではないかな。

委員：以前は親が厳しい分、祖父母が甘いというバランスがあった。今の親は甘い感じがする。

委員：核家族化の課題へ地域でどう取り組んでいけば良いのか。

委員：地域で子どもを育てていくという意識が必要だろう。

委員：地域のつながりが密ではなくなっている気がする。

委員：

朝、学校で団体等が練習をしていると、近隣からうるさいという苦情が寄せられる。地域と団体との交流を促進していかないと、なかなか地域住民の理解を得られない状況がある。

委員：

週1回くらいの利用なら地域の理解があってもいいと思うが。

委員：

学校の近隣住民も色々な仕事をしている人がおり、昼間寝ている人もいる。近隣との関係は難しい点がある。

委員：

昔と違い、地域の学校という意識が希薄化していると思う。

委員：

中高生の万引きが多いが、子どもが万引きをしても、自分の子どもが悪い事をしたと言う意識がない親もいる。

委員：

地域での教育的環境を再構築する手立てが必要だろう。

委員：

東伏見のコミュニティセンターには、青少年が集い、活発に活動しているようだ。

委員：

西東京市での青少年の社会教育活動はどのような現状なのか。

委員：

子ども会はほとんどない。地域単位ではなくマンションの自治会の子ども会活動がある程度だろう。

委員：

学校の地区班活動が子ども会的活動をしていると思う。

委員：

地域の青少年健全育成活動団体である「青少年育成会」の活動は活発だと思う。

事務局：

地域としての教育的環境醸成に向けては、青少年、障害者、高齢者などの対象者別の施設での取り組みの他に、公民館やコミュニティセンターなどでの多様な人や世代が交流する取り組みも大切だろう。

成人への学習支援

委員：

前回話された成人教育への取り組みについて興味がある。このテーマではどんな形で議論を進めることになるだろうか。

委員：

まず現状把握ということで、スポーツ・文化・さまざまな成人の学習状況について調査し、課題を明確にしていくことから始めたらどうだろうか。市内ではどんな分野で成人の学習が行われているのか、内容としては教養や習い事が多いのかなど、成人の学習の観点から事業を整理してみる。講座やイベントだけではなく、図書館の蔵書が成人向けにどのように用意されているかといったことも成人の学習資源として考えられるだろう。また、近隣市や国際的な状況もみながら、西東京市の現状について検証して行く事も必要だろう。

委員：

日本の成人は、学校を終えると仕事中心の生活になり、新しい知識や技術を身につける機会・時間がない。若い時の財産のみとなる。生涯学習の振興といわれたときも、諸外国では、リカレント教育や継続学習などの成人教育のしくみをつくってきたが、日本では高齢者の生きがいや学習活動が主流という感じだった。日本での成人学習の機会提供は企業で個別にやってきた。しかし、終身雇用ではなくなり、再就職したとしても前の会社でやっていたことが次の会社では通用しない状況が生じている。日本でも成人の学び直しや継続学習のしくみが必要な状況になってきていると思う。

事務局：

次回、社会教育関係の各課長・館長からの行政報告を予定している。

各委員からの課題意識は概ね出されたと思うので、行政報告等で社会教育行政の現状を把握し、次回以降、活動のテーマを絞っていく作業をすすめていただければと思う。今回出された図書館サービスの状況や子どもの読書活動への取り組みについては、次回図書館の方から合わせて報告をしてもらうよう調整をする。次回の資料として、各課・館の平成20年度の事務報告を事前に送付する。質問等があれば、事前にお知らせいただければ、次回お答えできるようにしたいと思う。

(2) 報告、その他

1. 都市社連協第4ブロック研修会（10月17日）について
 - ・ 清瀬駅改札 午後1時集合
2. 全国社会教育研究大会（11月2日）について
 - ・ 午前10時 こもればいホール前集合
3. 地域での活動の情報交換
 - ・ 齋藤委員より、講演会についての情報提供。
 - ・ 宮崎委員より、「かけはしの会」についての情報提供。

議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（10月定例会）は終了する。

次回会議 平成21年11月20日（金曜日）午後2時から